

令和3年度 特別の教育課程（書道科）の実施状況等について

春日井市立白山小学校

1 本校の教育目標

社会の変化に適切に対応できる「生きる力」の育成を目指し、個性尊重という基本的な考え方にたって、一人一人の能力・個性に応じた教育を展開する。

校訓

- やりぬく子－生活のきまりを身につけ、実践する子
- 考える子－正しい知識を求め、自ら学ぶ子
- 助け合う子－善意と友愛に満ち、仲良くする子

2 特別の教育課程の内容

(1) 特別の教育課程の概要

小学校第1～6学年において新教科「書道科」を新設する。第1学年では、国語を30時間、生活科を4時間削減して新教科に充て、第2学年では、国語を30時間、生活科を5時間削減して新教科に充てる。第3～6学年は、国語を30時間、総合的な学習の時間を5時間削減して新教科に充てる。「書道科」において、書を書くという具体的な活動を通し、友だちと触れ合ったり、家庭生活での話題をもたらしたり、地域の人々とのかかわりを生んだりする。そこから、集団の中での自分の役割や行動の仕方を考えさせるとともに、「書のまち」を発信する地域の特性を探求する活動にも取り組むことを通して、表現力の向上と向上心の伸長を図るとともに、日本古来の文化や自分の生活する地域を振り返りながら自己の生き方をも考えさせる。

(2) 特例の適用期間

平成27年4月1日～令和11年3月31日

(3) 実施学年

1年、2年、3年、4年、5年、6年、(特別支援学級 単独でも実施)

(4) 地域の特徴を生かした特別の教育課程を編成して教育を実施する必要性

本市は、三蹟のひとり小野道風の生誕の地と言われており、全国的にも数少ない書専門の美術館小野道風記念館を有し、「書のまち春日井」として、書道の普及発展に力を入れている。特に、小野小学校では、愛知県下児童・生徒席上揮毫大会が昭和11年から戦争中も途切れることなく開催され、第1回からの優秀作品を保管するなど、愛知県の書道教育の中心的な役割を果たしてきている。

書道は、「文字を正しく整えて書く」ことにおいて、従前から行われてきた国語科における書写の目的に共通するが、その文化・芸術性及び精神性においては、書写とは一線を引くものである。現在、児童の「表現力の向上」「心の教育の充実」などが重要な教育課題であると認識している。

それらを解決するため、前述した地域性や学校の特徴、さらには書道の特徴を生かした「書道科」を新設

し、表現力の向上を目指すとともに、よりよい作品をつくりあげようとする向上心、つくりあげた達成感から得られる自尊感情、相互評価などの他者との関わりから得られる親切心や規範意識等、特に心の充実を図りたいと考える。また、同時に郷土愛についても、書道を通して、「書のまち春日井」に根差して生活している自覚を促し、育てていく。

(5) 学校教育法等に示す学校教育の目標との関係

2に記載する特別の教育課程について、教育基本法（平成18年法律第120号）及び学校教育法（昭和22年法律第26号）に規定する小学校等の教育の目標に関する規定等に照らして適切であることを、春日井市教育委員会において確認済み。

3 特別の教育課程の実施状況に関する評価

(1) 評価の観点

- ① 特別の教育課程の編成・実施により、学校の教育目標が十分に達成されているか
- ② 教育課程全体としてバランスの取れた教育活動が実施され、学校教育法に示す学校教育の目標が十分に達成されているか

(2) 自己評価

児 童	<ul style="list-style-type: none"> ・ 筆の扱い方や道具の名前を学び、3年生からの毛筆の授業への期待感を高めることができた。 ・ 始筆・送筆・終筆に気を付けて丁寧に文字を書くことができるようになった。 ・ 毛筆硬筆ともに、字形を整えるよう意識して書くことができるようになった。 ・ よい姿勢、よい持ち方で書くなどの基本を理解し、身に付けることができた。 ・ 大筆と小筆の書き方の違いを理解できた。 ・ 毛筆の用具の使い方を正しく覚えることができた。 ・ 楽しんで書くことと同時に、書についての知識や技術を学ぶことができた。 ・ 前時の課題を振り返り、自分の目標を設定することができた。 ・ 書くことだけでなく、呼吸法も取り入れることで集中力がついた。 ・ 互いのよさを認め合う活動ができた。
教 員	<ul style="list-style-type: none"> ・ T2の書道科講師から毛筆での基本的な指導方法を学ぶことができた。 ・ 低学年では、水書板の練習を重ね、最後には墨汁を使って作品作りをするという段階的な指導により、児童が見通しをもって取り組むことができた。 ・ 字を丁寧に書こうという気持ちをもたせることができた。 ・ 毎時間視点を示すことで、児童に「ここができています」「ここができていない」などの基準を理解させることができた。 ・ 筆の運びや穂先の動きなど、デジタル教科書を使って効果的に指導することができた。 ・ 児童の実態や季節に応じた教材を取り入れることができた。

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 講師の先生にお礼を言うなどの対人関係の指導の機会となった。
保護者	<ul style="list-style-type: none"> ・ 丁寧に技術指導していただけるのはありがたい。 ・ 1年生から水習字で筆使いに慣れることはとてもよい。 ・ 半紙に限らず感性豊かな作品作りに取り組んでくださり楽しみがふえました。。

(3) 学校関係者評価

学校評議員の方々に春日井市での取組について紹介し、書の時間を参観していただいた。とても良い取り組みだと思うので今後も続けてほしい。

(4) 課題

- ・ 書の作品づくりの良いアイデアがあまり思いつかなかったので、どのような作品をつくることができそうか、勉強をしていく必要がある。
- ・ 授業改善を繰り返し、主体的に取り組ませるための指導方法を考えていく。

※ ホームページ掲載のURL… <http://www.kasugai.ed.jp/hakusan-e>